

ふれあい情報

2020年7月27日(月) 第316号

■発行 日本退職者連合

■発行人 野田那智子

■連絡先 〒101-0062

東京都千代田区神田駿河台3-2-

<TEL> 03-5295-0507 <FAX> 03-5295-0541 <e-mail> ntr@sv.rengo-net.or.jp

地域に根ざした活動を強化し、誰もが孤立することなく安心して暮らせる社会を実現しよう！

退職者連合は、7月15日13時30分から連合会館2階で第7回幹事会を開きました。運動方針では第24回定期総会の開催予定日でしたが幹事会に切り替え、総会提出議案(案)を決定し、産別退連・地方退連の代表者各1名を構成員とし、書面議決をもって総会とみなすこととしました。

人見一夫会長あいさつ

今日の幹事会で、第24回の定期総会については書面審議にして頂きました。各構成組織のみなさんに協力を頂きたい。

新型コロナウイルスに負けない取り組み

新型コロナウイルス感染が世界中に広がっており、昨日の段階で1300万人以上の方が感染されており、亡くなった方が57万人以上と発表されています。日本でも若干落ち着いたという傾向



あいさつする人見会長

がありましたが、東京でまた200名という人が感染し、手ごわいと感じています。医療従事者を始め、みんなが協力しなければ克服できない。

なんとしても新型コロナウイルスに負けないような取り組みが必要だと思っています。各地方退連でこのような状況の中でどのよううに運動をして行くのかと言う声がかかります。組織としてみんなが集まれないというのが大きなマイナスになっています。しかし、集まることによつての危険、3密の問題もあるのでどう共存していくのか問われています。

連合は、立憲民主党、国民民主党と「コロナ終息後の社会像」の会議を持ちました。終息後どのように運動を続けていくか追及していきます。

自然災害対策について

7月に入って集中豪雨で熊本を始め九州、岐阜、長野など被害が出ています。死者も90人以上被害が出ました。

水害は毎年出ています。気候変動の問題についてもしっかりと我々も取り組んでいく必要があると思っています。

組織拡大に向けて

組織実態調査で、今日の段階で集約をした産別・地方退連合わせて75万7028人と集約しています。退連として組織の人員について公称76万人としたいと思っています。2年前から減少しています。

各産別退連でも組織人を増やす努力をして頂いています。高齢者の組織を代表する組織として、組織拡大を図っていく必要があると思っています。

連合も1000万連合をめざし、当面800万人として、2030年までに達成しようとしています。私たちも現退一致で現職の協力を得て引き続き組織拡大の問題に取り組んでいきたいと思っています。

解散総選挙について、安倍政権では守れない生活者本位の政治をめざしていくという考え方を持っています。連合が汗をかいて労働者の支持ができる大きな塊を作ってもらうように、より一層連合にはたらかせて行きたいと思っています。

連合からの報告 連合副事務局長 山本和代



自然災害で、熊本、九州各地、広島などでお亡くなりになった方の報告があります。連合は災害対策本部を立上げ、連合熊本に愛のカンパから100万円を拠出しました。

ボランティアの派遣はウィルス対策でできませんが、地方連合のみなさんと協力しながら必要な物資の支援をさせて頂くなど出来ることをしていきます。その一環として募金活動「ゆにふぁん」で対応しています。

現地からの報告

熊本豪雨災害

(令和2年7月豪雨)

熊本県退職者連合の事務局

長 米岡新一様から報告が寄せられました。

2020年7月4日(土) 午

前4時50分、熊本県・鹿児島県に大雨特別警報発令。熊本県南部人吉地方には猛烈な雨が降り、清流球磨川は一気に氾濫しました。球磨川上流は「盆地部」中流は「山間狭窄部」下流は「平野部」を流れ日本三大急流の一つと言われています。

1965年にも大きな水害が発生していますが、今回はそれをはるかに超える甚大な被害の状況です。

今回の雨は、本格的に降り始めてから5時間ぐらいで、氾濫危険水位を越え流域が浸水しました、被災者の方々は「ものすごい速さで水かさが増してきた」と言っています。

避難・脱出・救助の状況を聞けば、水かさ天井まで上がった中、屋根裏を突き破って屋根への脱出、濁流の中、柱に



流失した人吉市県道15号西瀬橋

て救助を待つ人など、まさに危機一髪、厳しい状況を体験されています。

球磨川の流れに沿って、商店街・温泉旅館・ホテルがある人吉市は町の中心部が川となり濁流が流れ大変な状況となりました。さらに下流の球磨村、八代市坂本地区は山間に集落があり、田畑の流失・冠水・がけ崩れ、道路の寸断による孤立、と厳しい状況にあります。

人吉の温泉街の復旧、国宝・青井阿蘇神社や、相良700年の歴史の神社仏閣・史跡の復旧など大きな難題を抱えています。被災者は復旧に向けて立ち上がっています。今回はコロナの関係で、ボランティアは県内に限り募集して災害廃棄物の処

理・流れ込んだ泥だしなどに汗を流していますが、人数が圧倒的に不足し、道路は寸断され車が十分につかえず苦労しています。

連合熊本は7月20日より、各産別に呼びかけ、人吉市、芦北・津奈木町に対して、平日を中心に当面267名のボランティアを派遣しました。

今回の豪雨災害による、熊本県下の被害状況は熊日の報道によれば、死者65人(20日19時現在)、このうち65歳以上の高齢者は55人と85%を占め、死因は水死が多くを占めています。逃げる間もなく、濁流が押し寄せて来たことを表しています。建物被害は全半壊600棟、床上・床下浸水、一部損壊を合わせると、8802棟と報じています。

さらにSLが走る、JR肥薩線・くま川鉄道の鉄橋や橋の流出、国道219線はじめ、生活道路寸断など甚大な被害であり、復旧に相当な期間が必要と思われる。復旧には、国を始め県・地方自治体の力強い支援が求められています。



球磨村渡地区の惨状

第7回幹事会では緊急にカンパ箱を幹事に廻し、カンパを呼びかけました。

これは「READYFOR」を通じてコロナ禍や自然災害が続く中、子どもたちの心のケアを社会応援するものです。また令和2年7月豪雨での熊本県への災害支援カンパも合わせて要請しました。カンパ金は24,684円集まり、連合の山本副事務局長に配分と使途をお任せし、人見会長からお渡しいたしました。

連合「緊急カンパ」に「協力をお願いします！」

今回の緊急カンパは組織ごとにカンパ金を集約し、入金いただくことに加え、新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、「ゆにふあん」サイトを活用して、直接カンパ金を入金することもできます。連合HPからアクセスして下さい。

教訓は 自分の命は自分で守る 意識の醸成